

要旨

社会資本の整備にあたっては、本来、「効率性」と「公平性」の両視点から評価することが望ましい。しかし、わが国においては、伝統的な費用便益分析による効率性の視点からの評価は多くなされているものの、公平性の視点からの評価は十分になされていない。そのため、投資効率性が相対的に低い地方部の社会資本整備の必要性は疑問視されるケースが多い。今後、わが国は、人口減少社会に突入し、地方都市の地域経済は今以上に衰退することが予想される。そのような中で、都市部も地方部も含めた地域全体が格差を抑制しながら発展していくためには、従来の投資効率性の視点に加えて公平性の視点からの社会資本整備評価を行うことが重要な視点であるといえる。

そこで、本論文では、高速道路ネットワークを対象に、SCGE モデルのひとつである「RAEM-Light」を用いた便益帰着分析を行い、公平性の視点から高速道路ネットワークの整備方針について検討を行った。